

北の子

浜岡北小学校だより 令和2年度11月号

＜学校教育目標＞

「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子

＜重点目標＞

進んで関わり 認め合う子

学校行事を通した学びを成長に

学校行事の目標は、「望ましい人間関係を形成し、集団への所属観や達成感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的態度を育てる。」（学習指導要領）です。

10月には、5年生が観音山で2泊3日の自然教室を行いました。初日は、全行程6km程度の山頂登山でした。歩き始めて2kmも行かないうちに数名がこれ以上歩けそうもないと訴えましたが、仲間や教師の励ましによって全員が最後まで歩き通して達成感を分かち合いました。今後困難に出合ったときには、今回のやり遂げた経験を思い出し、強い意志と支え合う姿勢で立ち向かっていくことと思います。2日目の冒険ラリーでは、班ごとに決めたコースを一日かけて歩きました。体調を崩したり迷うことがあったりというように様々な困難が想定され、真の協力が求められます。しかし、どの班もととてもよい雰囲気でもゴールすることができました。以下はRさんの記録です。

チェックポイントまでが遠くて、歩くのが大変でした。でも、班の人と協力しながら歩きました。難所の所も協力しながら歩きました。班の人と歌ったりしりとりをしたりして、楽しく最後まで歩くことができました。



これらの活動を通して学校教育目標の『「たくましさ」と「思いやり」で未来をつくる子』に向けて一歩前進したことを嬉しく思いました。

振り返ってみると、自分たちの力でつくる運動会を実現した、たくましくて思いやりのある現6年生も、昨年度の自然教室の経験をきっかけに見違えるような成長を遂げました。現5年生も同様に、自然教室での学びを今後の学校生活などに活かしてさらなる成長をとげ、下級生のあこがれの存在になってほしいと願っています。そして、頼れる存在の上級生を目標に下級生も頑張ることで、全学年の子どもたちが成長する姿を期待しています。

児童会活動と家庭の協力で盛り上げるあいさつ運動に

児童会活動の目標は、「望ましい人間関係を形成し、集団としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的態度を育てる。」（学習指導要領）です。

運営委員会では、あいさつが本校の課題の一つと考えました。もちろん下記の例のような気持ちのよいあいさつをする人もいますが、個人差が大きいことが、最大の課題といえます。

【気持ちのよいあいさつの例】

- ・笑顔で
- ・明るい声で
- ・校長より先に
- ・「校長先生」と声をかけてから
- ・校長の顔を見て
- ・おじぎをしながら（右写真参照）



そこで、各学級で話し合った案をもとに、11月9日から全校であいさつ運動を始めることにしました。具体的には、気持ちのよいあいさつをした人を見つけて放送で紹介するという方法です。そのポイントが第3ステージ（10/5～1/5）のキーワード「認め合い励まし合いながらめあてに向かって共に伸びようと努力し続ける子」です。よい人を見つけて認めるとともに、そうでない人（特に恥ずかしくて声が出ない人）ができるように励ましたり、少しでもできるようになったことを認めたりし続けることが大切です。また、あいさつをすることが当たり前という感覚にすることが大切で、その鍵を握るのが家庭内のあいさつです。まず、大人が率先してあいさつをしましょう。あいさつは温かな人間関係づくりにも役立ちます。子どもが温かい気持ちで登校することで、学校生活もより楽しくなります。子どもたちによるよりよい学校づくりへ強力なバックアップをよろしくお祈りします。

（校長 北原 弘明）